

# 中野寛成議員、理事長に復帰

## — 新年度活動方針決定される —

民社協会（米澤隆会長）は、平成15年度年次総会を2月22日、東京の全国町村会館にて開催した。

総会には、各地方協会代表、労組関係者、協会本部役員など約90名が参加し、熱心な討議の結果、新年度活動方針等を決定した。



挨拶する米澤会長と参加者

総会は、玉置一弥理事長代行の開会挨拶に続き、物故者の過去の功績を称えるとともに、ご冥福を祈り1分間の黙祷を捧げた。

続いて議長に大久保尚洋氏（和歌山県）、豊嶋輝慶氏（神奈川県）の両氏を満場一致で選出した。

議長就任挨拶後、米澤会長が挨拶に立ち、「もうすぐ統一地方選挙が始まるという忙しい中、全国各地からのご参加に感謝する。今、日本経済は中央、地方ともに先行き真っ暗であり、もう再生へのエネルギーが残っていないのではないか。その厳しい状況下で、連日皆さんのご健闘に敬意を表し、皆さん方のその力が日本の再生を支えているのだという自信を持って頑張ってください」と述べられ、また、「統一地方選挙では502名の民社協会推薦候補者全員の当選を目指す」と力強く挨拶された。

来賓として、堀江湛氏（政策研究フォーラム理事長）と林司氏（友愛連絡会会長）が祝辞を述べられた。

祝辞終了後、中野寛成議員が国政報告を行った。

続いて、平成14年度の、全国の組織状況、中間地方選挙への取り組み、友好団体との提携、定期刊行物の刊行、地方議員研修会の開催、各種会議の開催、政研21勉強会の開催、統一地方選挙の推薦状況、民主党代表選挙、新理念研

究について、等の活動報告および会計報告を田中慶秋専務理事が、会計監査報告を増田光儀監事が行った。

続いて提案事項として、平成15年度活動方針(案)(本号2ページに掲載)、予算(案)の説明を田中専務理事が行い、質疑応答後、両案ともに原案通り可決承認された。

報告、提案事項承認後、統一地方選挙必勝決議(案)が、平田健二選対委員長より、また、北朝鮮拉致問題解決促進決議(案)(米澤会長緊急提案)を、玉置理事長代行が提案、いずれも満場一致で採択された。

役員選出は、玉置理事長代行が提案を行い、中野議員の理事長復帰と1部の理事の新任、退任が可決承認された後、新役員を代表して米澤会長が挨拶を行った。

米澤会長は、「新しい本部役員の皆さんと古くから民社協会を支えていただいている役員の皆さん共々、ご推挙を賜りありがとうございます。民社協会には沢山の問題もあるが、いままで培ってきた民社協会の気持をもっと前面に出して、皆様のご期待に沿うべく、これからまた一步一步民社協会の運動を、皆様方のご意見を踏まえて進めていくのでよろしく願います」と述べられた。

休憩をはさみ記念講演として、大岩雄次郎氏（東京国際大学教授・改革理念研究委員会委員）が『新理念研究の骨格について』をテーマに40分間講演。

詳細は、政策研究フォーラムの月刊理論誌「改革者」に4月号より順次掲載される。購読し学習しよう！

4月号掲載は下記の通り。

第1回 加藤秀治郎（委員長、東洋大学教授）

総論「日本政治における新しい改革の理念を求めて」

講演終了後の閉会挨拶では、今泉昭副理事長が「本日の総会での熱心な討論の柱は3つある。その中の最重点課題は統一地方選挙の完全勝利である」とし、勝利に向けてガンバローを三唱。総会は無事終了した。

第2部の懇親会は、名取憲彦副理事長の司会で始まり、中野理事長および中田一郎常任顧問の挨拶、西村章三常任相談役による乾杯と進み、和やかに意見交換が行われ、富田健治副理事長の中メで盛会裡に終了した。